



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：ロウハーニー新大統領の就任

(7月25日ハムシャフリー紙ほか)

2013年6月14日(金)に第11期イラン大統領選挙が実施され、保守穏健派であり改革派の支持も得たロウハーニー候補が当選した。8月3日に大統領認証式、同4日に大統領宣誓式が実施され、ロウハーニー新大統領が誕生する。

7月8日、バーホナル国会副議長は、「次期大統領は、同式典の後、閣僚を指名するのに10日間の猶予を有する。規定どおりに物事が進めば、閣僚への信任投票は、ヒジュラ太陽暦1392年シャフリーヴァル月(2013年8月23日～9月22日)までかかるであろう」と述べた。

大統領宣誓式典への出席者

7月13日付報道によると、日本政府は、大統領の宣誓式典に、安部首相の特使として、自民党の高村副総裁の派遣を検討している。同副総裁は、外相時代にロウハーニー師と会談した。

7月25日付『ハムシャフリー』紙は、大統領宣誓式典への出席者について、以下のように報じている；

- (1) 首脳級で対応する国々：レバノン(スレイマーン大統領、マンスール外相、モガベル副首相)、アフガニスタン(ハーミド・カルザイ大統領)、タジキスタン(エモマリ・ラフモン大統領)、パキスタン(アースィフ・アリー・ザルダリー大統領)、トルクメニスタン(グルバングル・ベルディムハメドフ大統領)、シリア(ワーイル・ハルキー首相)、ベネズエラ(ニコラス・マドゥロ・モロス大統領)。
- (2) ハイレベルで対応する国々：トルコ(ジェヴデト・ユルマズ開発大臣)、オマーン(国会議長)、マレーシア(外相)、イラク(副大統領)、UAE、カタール、クウェイト、アゼルバイジャン、インドネシア、ラテンアメリカ諸国。

一方、同紙によれば、欧州諸国はこれまで、イラン新大統領宣誓式典へ本国から代表を送らないことを決定済みである。欧州諸国は今回、現地大使館の代表者(テヘラン駐在)を参加させる対応となり、英国はテヘランに対し不在のため、参加しない。英外相は、式典に招待を受けたにもかかわらず、1人の外交官すら送らない予定である。